

上市町立小学校外国語活動、外国語科でのフォニックス導入

～『読んで話せる』『聞いて書ける』 楽しく学ぶ英語を目指して～

上市町では、小学校3，4年生の外国語活動、5，6年生の外国語科のすべての授業において外国語指導助手が会話や発音のモデルとなり、教員をサポートしています。

外国語指導助手は、教員のサポートと合わせ、フォニックスの指導も行っています。

フォニックスは、子どもたちが「読んで話せる」「聞いて書ける」ようになり、中学校に進学しても英語を楽しく学んでもらうにはどんな授業が良いのか？を考えた時に行き着いた指導法です。

フォニックスの指導は、授業開始から、3，4年生は15分程度、5，6年生は5分程度を目安に毎回行っています。

フォニックスの3つの特徴

1. 音と文字をつなぐ学習法で英語の正しい発音が身につく
2. 単語を見てどのように発音するかを予測できる(reading→ speaking)
3. 聞いた言葉を文字に起こすことが出来る(listening→ writing)

フォニックス法導入の背景

フォニックスは、もともとは英語圏のネイティブの子どもたちの読み書きのための『音と文字をつなぐ』学習法です。4歳～6歳頃の文字学習の導入期に、音のもっとも小さい単位である音と文字の関係に着目して、その規則を覚え、正しいスペリングで書けるようになる基を築くために取り入れられています。ABCDのアルファベット読みはエイ、ビー、スィー、ディーですが、フォニックスで読みではア・ブ・ク・ドと発音します。フォニックスは、いわゆる「音のあいうえお表」とも呼べるものです。

初めて聞いたり読んだりする英語を、書いたり発音したりできる。これは子供たちの言語活動において大きな達成感と自信をもたらします。フォニックス法は、より多くの子供たちが英語の言語活動に自発的に励み、また中学校の学習への良い橋渡しとなると考えています。上市町内の全ての小学校の外国語活動、外国語科において、子供たちがいきいきと言語習得に取り組めるよう、より良い環境づくりに努めていきたいと考えています。

フォニックスに期待される効果

- 正しい発音が身につくことで、自信をもって楽しく言語活動に取り組むことができる。
- 初めて目にする英単語をどう発音するか予測できるため、活発なスピーキング活動につながる。
- 聞いた言葉を文字に起こすことが出来るため、ライティング力の助長につながる。
- 中学校の英語の授業に対する意欲やスキルの差の緩和につながる。